

自ら未来を切り拓く児童の育成

— 計画的偶発性理論を基にした学級経営の工夫を通して —

南さつま市立 加世田小学校

教諭 鎌迫 一成

目 次

I	研究主題設定の理由
II	研究の仮説
III	研究の実際
1	研究の基本的な考え方及び児童の実態
2	学級経営の工夫の実際
(1)	E L (Enjoy Life) シートの作成	
(2)	好奇心を育むための工夫	
(3)	持続性を育むための工夫	
(4)	柔軟性を育むための工夫	
(5)	楽観性を育むための工夫	
(6)	冒険心を育むための工夫	
IV	研究のまとめ
1	成 果
2	課 題

〈参考文献〉

- 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 総則編』 東洋館出版
- 独立行政法人 労働政策研究・研修機構
『職業相談場面におけるキャリア理論及びカウンセリング理論の活用・普及に関する文献調査』 太平出版
- 鹿児島県総合教育センター 『指導資料 キャリア教育 第 5 号』 甲斐 修

I 研究主題設定の理由

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。

このような時代にあって、児童が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、キャリア教育の充実を図ることが求められている。

しかし、これまでのキャリア教育においては、「将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されているのではないかと指摘されている。

スタンフォード大学の心理学者であるクルンボルツは、「綿密な計画のみによって未来は形成されるわけではなく、予期せぬ出来事や出会いなどによってもたらされる様々な機会が個人の未来を決定することの方が多い。」という計画的偶発性理論を唱えている。社会的変化が激しく、先の見通しが立ちにくい近年においては、従来のように計画的なキャリア形成は困難になってきている。また、計画がしっかりとしているほど、それ以外のチャンスを逃してしまうことにもなる。このようなことから、この理論においては、「①個人がすでにある特性に基づいて意思決定していくよりも、自分の能力・興味をより拡大していくこと、②キャリアは安定したものではなく変化し続けるものであり、個人は其中で働き続けるための準備をすることが重要」としている。

以上を踏まえて、予測困難な社会の中でも、多くの出会いや経験を自らの未来につなげる資質・能力を育成するため、キャリア教育の視点から学級経営を工夫していくことが大切だと考える。

II 研究の仮説

多くの出会いや経験を未来につなげる資質・能力を具体化し、それらを育むことができるように学級経営の工夫を行えば、自ら未来を切り拓く児童の育成ができるのではないかと仮説を立てる。

III 研究の実際

1 研究の基本的な考え方及び児童の実態（実施日：令和3年4月 対象：加世田小学校5年は組35名）

「自ら未来を切り拓く児童」とは、「多くの出会いや経験を自らのキャリアに生かし、社会的に自立していく児童」と捉える。計画的偶発性理論においては、偶然の出来事をキャリアに生かすための資質・能力として、次の5つを挙げている。

- ① 好奇心：新しい学びの機会を模索する
- ② 持続性：たとえ失敗しても努力し続ける
- ③ 柔軟性：姿勢や状況を変えることを進んで取り入れる
- ④ 楽観性：新しい機会は実行でき達成できるものとする
- ⑤ 冒険心：結果がどうなる分からない場合でも行動することを恐れない

これらを踏まえて、「自ら未来を切り拓く児童」の姿を具体的に次のように整理し、これらの姿を観点として調査した。各質問に対して「できている（4点）」、「ややできている（3点）」、「あまりできていない（2点）」、「できていない（1点）」で回答させて平均点を算出し、分析した。

資質・能力	NO.	自ら未来を切り拓く児童の姿	平均点
好奇心	1	いつもやりたい・やるべきことを見付けて学習・活動する	2.4
持続性	2	目的・目標に向けて努力する	2.7
柔軟性	3	失敗や間違いを注意されても素直に聞く	2.8
	4	分からないところはすすんで質問する	2.4
楽観性	5	誰とチームやグループで一緒になっても楽しむ	3.3
	6	否定的な発言をしない	2.8
	7	どんな学習や行事でも楽しむ	3.4
冒険心	8	苦手なことでもやりたいことにはすすんでチャレンジする	3.1
	9	誰にでもすすんであいさつ・えしゃくする	2.5
	10	すすんで発表する	2.4

好奇心については、「いつもやりたい・やるべきことを見付けて学習・活動する」が2.4と低い結果になっている。実際、授業中や清掃活動中、「次どうすればいいですか」と問いかけてくる児童が多い。

持続性については、「目的・目標に向けて努力する」が2.7と低い結果になっている。これは、それぞれの行事に向けて、目標設定をしたり、努力したりする時間が設定されていないためだと考える。

柔軟性については、「分からないところはすすんで質問する」が2.4と特に低い結果となっている。これは、受け身で学習や活動に臨んでいたり、質問しやすい雰囲気づくりができていなかったりしたためだと考える。

楽観性については、「否定的な発言をしない」が2.8と低い結果になっている。実際、勤労奉仕の活動になると、「えー?」、「面倒くさい」という児童からの声が多数聞かれる。

冒険心については、あいさつと発表が特に低い結果となっている。積極的な児童のみが発表し、消極的な児童が発表しやすい雰囲気を周りがつくれていない。また、教師や保護者と廊下をすれ違っても無反応な児童が多いこともうかがえる。

2 学級経営の工夫の実際

(1) E L (Enjoy Life) シートの作成

教児共に、自ら未来を切り拓く資質・能力を常に意識し、毎学期振り返ることができるように、E Lシートを作成した(図1)。

Enjoy Life シート		5年は組()番 名前()			
人生を楽しむ5つの態度	人生を楽しむための具体的行動	4月	7月	12月	3月
見付け続ける態度 (好奇心)	いつもやりたい・やるべきことを見付けて学習・活動する				
あきらめない態度 (持続性)	目的・目標に向けて努力する				
受け入れる態度 (柔軟性)	失敗や間違いを注意されても素直に聞く				
	分からないところはすすんで質問する				
楽しむ態度 (楽観性)	誰とチームやグループで一緒になっても楽しむ				
	否定的な発言をしない				
	どんな学習や行事でも楽しむ				
挑戦する態度 (冒険心)	苦手なことでもやりたいことにはすすんでチャレンジする				
	誰にでもすすんであいさつ・えしゃくする				
	すすんで発表する				
Enjoy Life Point 合計					
	1 学 期	2 学 期	3 学 期		
楽しかった 一番の思い出					
一番成長したと 感じること					

図1 Enjoy Life シート

(2) 好奇心を育むための工夫

新しい学びの機会を模索できるようにするための「見付ける」力を育めるよう、次のような工夫をした。

ア 朝活

登校後、学年で「朝活」を設定した(図2)。運動タイムでは、運動委員会の取組「体力向上中」カードに個人で挑戦したり、学級で「チャレンジかごしま」の目標を立てたりして、自分や友達とやりたい運動を見付けて取り組めるようにした。あいさつ運動では、1年生の教室前や中学年の廊下など、自分たちであいさつする場所を見付けて取り組めるようにした。朝ボランティアでも、グループで毎朝きれいにしたい場所を見付けさせ、取り組ませるようにした。

月	火	水	木	金	土
運動	あいさつ	ボランティア	運動	ボランティア	運動
					

図2 朝活計画表

イ 一係一企画

係活動では、一人一仕事を割り振って責任感をもたせるだけでなく、一係一企画を推奨し、自分たちで学級をよりよくする工夫を見付けられるようにした。



図3 生き物観察日記



図4 係新聞・係ポスト

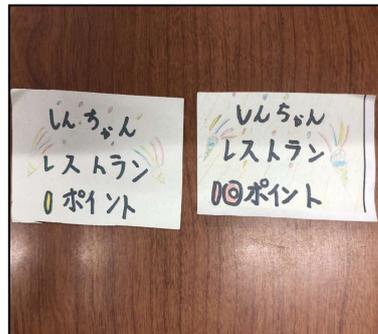


図5 おかわり達成ポイント

ウ フリータイム

授業時間において、従来は活動が終わった児童に、終わっていない児童の補助をさせることが多かった。しかし、これでは時間や人数を持て余し、有意義な活動にならないことも多かった。そこで、活動が終わった児童は「フリータイム」として、「学習に関係のあることだったら何をしてもよい」というルールにした。こうすることで、「ドリルを進めよう」、「都道府県プリントをしよう」、「総合のプレゼンテーションの作成を進めよう」、「係活動の一企画の準備をしよう」など、自らやりたいことを見付けて活動する機会を多く設定できるようになった。

エ お楽しみ会

学期末のお楽しみ会は、好奇心の幅を広げられるように、提案をさせる際「やったことないけど楽しそうなこと」という視点を与えた。1学期は夏祭り、2学期は冬パーティーをして、各グループで2週間前から企画・準備をさせた(図6)。

【夏祭り】

射的、スイカ割り、くじ引き、ボーリング、モグラたたきなど

【冬パーティー】

どちらが本物クイズ、ビンゴ、全員チャレンジ、新聞雪合戦、巨大双六など

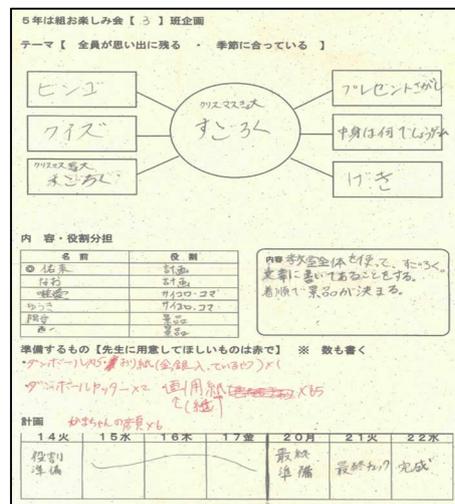


図6 お楽しみ会企画シート

(3) 持続性を育むための工夫

目的・目標に向けて、失敗しても努力し続ける力を育めるよう、次のような工夫をした。

ア 学級目標の設定、学級旗の作成

学級全体としての目指す姿を共通理解するために、ELシートを通して挙げられた個人の課題を基にして、年度初めに学級目標を設定した(図7)。学級目標は教室に掲示し、各行事でも常に意識できるように学級旗を制作し持ち歩くようにした(図8)。



図7 学級目標



図8 学級旗

イ 個人のめあての設定

自己の課題に応じた具体的な目標を掲げられるように、学期ごとの個人のめあては、ELシートを基にして設定させた(図9)。これまでは、学習・健康・生活と3つの目標を決めさせていたが、複数あると一つ一つを十分に意識させることが難しかったので「一事徹底事項」として、1つのみ設定させ、学期末にELシートで振り返られるようにし、PDCAサイクルで、学期のめあての設定及び反省をできるようにした。

失敗や間違いを注意されても、素直に聞くことができる	3	3
失敗や間違いをしたら、すぐ正直に報告できる	3	3
分からないところは、すすんで質問できている	2	2
「だれか」と頼まれたらすすんで働くことができる	3	4

この児童は、4月も7月も「分からないところは、すすんで質問できている」の項目が2だったので、2学期の一事徹底事項にこの項目を選んでいく。

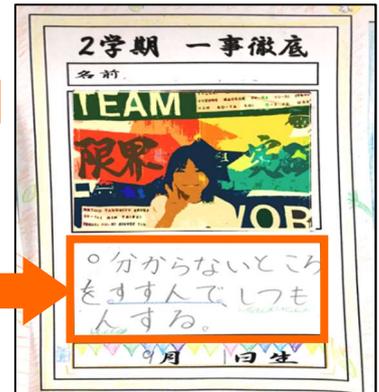


図9 2学期のめあて

ウ 単元テストに向けての宅習

本校では宅習帳を基本的な宿題としているが、児童の中には、「どの漢字を書けばよいのか」、「宅習には何の勉強をすればよいのか」など、目的意識をもって自学することを苦手とする様子が多く見られた。

そこで、時間割にテスト範囲の漢字やページを示した(図10)。また、自分の課題となるものを選べるように、各教科のプリントを用意して宅習のページに貼れるようにした(図11)。

5	国土の地形の特色	5の1はバスケ	多様な図形フレテスト	平均	入力の変化テスト
6		平均	公園のきまわりを作ろう	合同な図形テスト	理科
下校時刻	15:00	15:45	16:05	16:45	16:05
漢	任す 角 飛れる 笑顔 態度 釣り 似合う 不格好 心積 表現 想像 印象 理解 技術 雑談 興味 許可 河川 開像 修復 防災 点検 滅ちに 移動 入賞 貿易 変大 清潔 質問 報告 正確 確かめる 所属 内容 意識 準備 応じる				
国	P11~44 なまなつてよ 漢字の成り立ち(象形・指事・会意・形声の区別(付くよ)) 漢字の位置				
社	P6~15 経緯(たて) 緯線(横) 赤道 北半球 南半球 世界の6大陸、3海洋 イギリス・フランス・ドイツ・ロシア 中華人民共和国・大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国・フィリピン・モンゴル・インド・オーストラリア・アメリカ カナダ・アルゼンチン・ブラジル・オーストラリア・ニュージーランド エジプト 南アフリカ共和国の位置 南島(東)・与那国島(西)・仲ノ島島(南)・択捉島(北)の位置 北方領土(ロシア) 竹島(韓国) 尖閣諸島(中国)の位置 日本海・対馬海峡・東シナ海 日本海位置の説明				
数	P18~31				

図10 時間割のテスト範囲

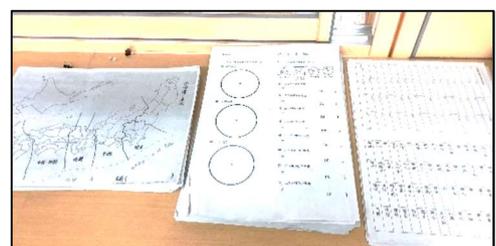


図11 宅習用プリント

エ 南さつま検定に向けての取組

南さつま検定に向けては、213 問プリントを用意し、休み時間や宿題などで、いつでも取り組めるようにした。また、213 問中何問正答できたか記録させることで、自己の成長を感じられるようにし、継続的な努力につなげることができた。

また、社会科見学で問題に出されている各所を回することで、意欲の喚起を促すことができた(図 12)。



図 12 亀ヶ丘での集合写真

オ 体育行事に向けての取組

目的・目標に向けて、たとえ失敗しても努力し続ける力を育めるようにする上で、体育行事はとても重要だと考える。苦手な運動に対しても、自己の課題に応じた目標を設定し、継続的な努力に意欲をもつことができるように次のような工夫をした。

○ 水泳学習発表会

水泳学習においては、水が苦手な児童でも意欲をもって取り組めるように、単元を通して各時間の導入段階で「シンクロ」を準備運動として取り入れた。発表会では、保護者に披露した(図 13)。1 時間目に顔を水につけられなかった児童が学年で 5 人いたが、全員つけられるようになった。



図 13 シンクロ発表

○ 5 リンピック(学年陸上記録会)

今年度も、新型コロナウイルスの影響で陸上記録会が中止となってしまったので、5 年生全員を対象とした 5 リンピックを実施した。全員選手として、3 種目の中で挑戦したい種目を練習した。自己の成長を感じられるように、記録カードを作成した(図 14)。本当の記録会とは違い、全員が選手として目標を設定し、記録更新に向けて努力するよい機会となった。

5 リンピック記録カード(男) 5年()組()番 名前()																				
種目	9/21(火)					9/24(金)					9/28(火)									
	秒	点	秒	点	秒	点	秒	点	秒	点	秒	点	秒	点						
100m																				
走幅跳	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点
走高跳	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点	cm	点

点	★3日間で1番いい記録を自己記録する(先生が記録したもの)★各種目の上位2人を書き込みに報告する。																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
100m	22.9	22.4	21.8	21.2	20.6	20.0	19.4	18.8	18.2	17.6	17.0	16.4	15.8	15.2	14.9	14.9	14.3	14.0	13.7	13.6
走幅跳	190	200	210	220	230	240	250	260	270	280	290	300	310	320	330	340	350	360	370	380
走高跳	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250	260	270	280	290

図 14 5 リンピック記録カード

○ 持久走大会

持久走大会に向けては、走ることを苦手としている児童でも、目標をもって練習に臨めるように、学級の目標となるように「みんなで東京オリンピックへ行こう！カード」を学級掲示し、学級全体で努力する意識をもたせるようにした(図 15)。

また、桜島 1 周の距離を目指して走る「桜島 1 周カード」を個人に用意した(図 16)。完走した児童には「桜島 1 周完走賞」を渡した。

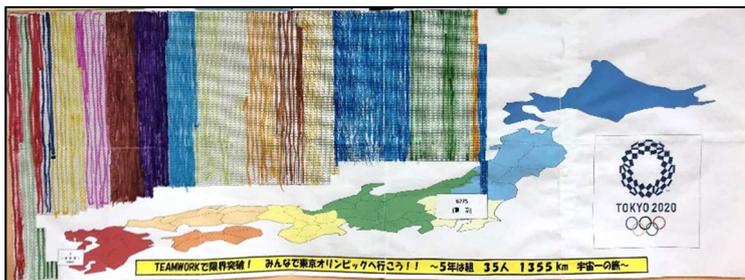


図 15 東京オリンピックへ行こうの掲示



図 16 桜島 1 周カード

(4) 柔軟性を育むための工夫

姿勢や状況を変えることを進んで取り入れる力を育めるように、次のような工夫をした。

ア みんなで遊ぶ日の約束事

4月に「昼休みにみんなで遊ぶ日」を週2回と話し合っただけで決めた。しかし、勝負事で争ったり、ルールでの言い合いになったりするなどしてけんかが絶えなかった。

そこで、全員で話し合っただけで約束事を決め、注意されたら受け入れ、勝っても負けても一緒に楽しむことを大切にできるようにした(図17)。

- ① ルールで注意されたら受け入れる。
- ② 味方を責めない。相手をけなさない。
- ③ 勝っても負けてもみんなで遊べたことを楽しむ。

図17 みんなで遊ぶ日の約束事

イ 学習における丸付けや質問

これまでの算数科授業等においては、挙手して教師や解き終わった友達を呼び、丸付けをしてもらったり、分からない問題について質問をしたりしていた。これでは、前述のとおり、解き終わった児童は人数や時間を持て余し、質問したい児童も受け身の姿勢になってしまう。

そこで、丸付けや教えてもらうことを求める児童には、自分から終わっている友達のところに足を運ばせるようにした。こうすることで、自らお願いしたり、質問したりする力を育むことができた。

ウ 朝のスピーチ質問タイム

朝の会では、スピーチの時間を設定し、全体から日直(発表者)に質問する場面を設けた(図18)。

質問タイムを設けたことで、どのようなことを質問すればよいのか具体的に理解し、大勢の人の前で発言する力が身に付いた。結果として、講師による講話後や他学年との交流の時間後などの質疑応答の場面で挙手する姿が多く見られるようになった。



図18 質問タイム(朝の会)

(5) 楽観性を育むための工夫

新しい機会や出会いはよりよいものとする力を育めるように、次のような工夫をした。

ア 朝の円陣

朝の会は、全員で円陣を組み、学級目標を言ってスタートする。円陣を組む際は、同性ばかりで固まらないように、できるだけ男女交互に並ぶようにし、誰とでも分け隔てなく接する態度を育めるようにした(図19)。



図19 朝の円陣

イ 係イベントへの積極的な参加

新しい機会に多く触れるためには、積極的に参加することが大切だと考える。多くの人々が参加することで、企画した児童は一層意欲が増し、新しい機会を生み出していく。

そのため、「多くの機会に触れるためには積極的に参加し、企画した友達が『してよかった』と思ってもらえるようにすること」、「企画へ多くの友達に参加してもらいたければ、他の企画にも協力すること」と指導している。

と	の	持	か	と	な	て	終	が	ズ	ズ	
悪	企	先	ち	ら	て	楽	く	わ	そ	あ	の
い	画	生	は	も	し	れ	り	れ	り	こ	つ
ま	も	が	な	う	人	て	に	は	ま	と	く
し	い	言	り	ま	れ	で	い	何	す	で	り
た	っ	う	ま	た	し	く	た	人	五	う	ま
。	ほ	よ	し	作	か	れ	こ	か	時	れ	し
い	う	た	ろ	っ	て	と	の	間	し	た	昼
参	に	。	う	た	い	で	友	目	か	。	休
加	、		と	で	た	す	の		そ	み	
し	み		い	す	の	。	が	接	た	の	に
よ	ん		う	こ	で	み	や	業	こ	ク	ク
う	な		気	れ	、	ん	の		と	イ	イ

図20 児童の日記「うれしかったこと」



図 25 学年Tシャツ制作



図 26 学年横断幕

(6) 冒険心を育むための工夫

結果がどうなる分からない場合でも行動することを恐れない態度を育めるように、次のような工夫をした。年度初めの学級の様子から、特に発表やあいさつを苦手としている児童が多く見られたので、その2つを重点的に取り組んだ。

ア あいさつの励行

あいさつを一人でできなかつたり、はっきりとした声でできなかつたりするなど、あいさつに対して苦手意識の強い児童が多く見られたので、学年全体であいさつのルールを決めた(図 27)。毎朝、5年生の全教室・全担任にあいさつすることで、一人であいさつすることに慣れ、自信をつけることができた。

- 1 先に 名前をつけてあいさつ
- 2 朝来たら、各教室の入口で全員に向けてあいさつ
- 3 朝来たら、5年生の全学級担任に名前をつけてあいさつ
- 4 保護者やお客様には「こんにちは」

図 27 学年あいさつルール(廊下に掲示)

イ 発表ルール

発表についても、あいさつと同じように苦手意識が強い児童が多く見られたので、発表ルールを決めた(図 28)。毎日できるだけ全員に発表機会があるように発問し、発表に対して自信がもてるようにした。

- 1 解答に丸をもらった問題については必ず挙手。
- 2 グループで話し合った後は必ず挙手。
- 3 自分の考えをもてた人は、グループの友達が全員発表できるように話し合う。

図 28 発表ルール

ウ 総合的な学習の発表、お楽しみ会の運営

児童の自主性は大切だが、まずは「自分は人前でも話せる」という自信をもてるように、多くの機会を全員につくることが大切だと考える。

そこで、総合的な学習では、必ず全員に話す機会があるように発表の仕方を話し合わせた(図 29)。

また、お楽しみ会では、全員に役割をもたせ、学級全体の前で話す機会を必ず設けるように各係で話し合わせた。



図 29 総合的な学習の発表

エ 代表への立候補

結果がどうなるかわからない場合でも行動することを恐れない姿としての最終目標は、学校や学年、学級の代表に立候補できる児童と考える。

そこで、運動会の応援団や各行事の代表あいさつ、班のリーダー決めなど、立候補する機会がある際は、「できる・できないではなく、『やってみよう』という気持ちが少しでもあれば挑戦してみよう」という声かけをした。

い	日	は	全	フ	ら	果	ぼ	こ	ら	ン	団	係		
組	に	な	最	カ	レ	考	く	く	う	で	決	ま	決	今
立	な	れ	力	レ	考	く	く	う	で	決	ま	決	ま	日
に	候	ま	明	言	い	つ	い	ま	が	だ	に	を	し	最
立	補	せ	に	い	つ	い	ま	が	だ	に	を	し	最	あ
っ	で	ん	ま	し	た	し	果	な	な	決	ま	初	り	時
て	き	て	ぼ	ゆ	い	言	た	る	あ	り	め	し	に	ま
よ	た	し	く	た	！	登	ま	と	ま	る	た	し	し	目
か	だ	た	は	は	を	昨	思	し	と	男	た	に		
っ	け	が	応	組	言	日	は	た		ジ	子		運	
た	で	援	！	の	と	た	後	の		の			動	
で	も	応	団	！	て	夜	て	け	け	ろ	ン	応	会	
す	い	援	に		と	か	も	ど	か	ケ	援		の	

図 30 児童の日記「くやしかった応援団決め」

IV 研究のまとめ

資質能力	NO.	自ら未来を切り拓く児童の姿	4月	12月	変容
			平均点	平均点	
好奇心	1	いつもやりたい・やるべきことを見つけて学習・活動する	2.4	3.5	↑1.1
持続性	2	目的・目標に向けて努力する	2.7	3.7	↑1.0
柔軟性	3	失敗や間違いを注意されても素直に聞く	2.8	3.7	↑0.9
	4	分からないところはすすんで質問する	2.4	3.3	↑0.9
楽観性	5	誰とチームやグループで一緒になっても楽しむ	3.3	3.9	↑0.6
	6	否定的な発言をしない	2.8	3.8	↑1.0
	7	どんな学習や行事でも楽しむ	3.4	3.8	↑0.4
冒険心	8	苦手なことでもやりたいことにはすすんでチャレンジする	3.1	3.8	↑0.7
	9	誰にでもすすんであいさつ・えしゃくする	2.5	4.0	↑1.5
	10	すすんで発表する	2.4	3.5	↑1.1

家の人などから自分から発言する事が増え、家庭にも積極的に行動する事が見受けられ、大きな成長を感じました。

家の人などから何事にも挑戦する姿が見られた2学期。やってみようと思う気持ちを大切にこれからも過ぎてほしいです。"あきらめずに頑張れば必ず結果が出る"という事にも気が付け良かったね。

図 32 保護者から児童へのコメント（12月）

1 成果

- (1) 多くの出会いや経験を未来につなげる資質・能力を具体化し、児童の実態を踏まえて目指すべき児童の姿を明確にしたことで、指導の評価や児童の自己評価が行いやすくなり、指導改善に生かすことができた。
- (2) 多くの出会いや経験を未来につなげる資質・能力を育成するために学級経営の工夫を行ったことで、全ての項目を向上させることができ、自ら未来を切り拓く児童を育むことにつながった。

2 課題

- (1) 「分からないところはすすんで質問する」については他項目に比べると低い結果となっている。積極的に質問することが苦手な児童でも、教師や友達に自ら関わりやすいような雰囲気づくりに継続して努めていきたい。
- (2) あいさつや発表については大きく向上したが、まだ「ルール」として取り組んでいる児童がいる。「ルール」としてではなく、「人前で話すことが楽しい」、「あいさつは気持ちがよい」と主体的な思いで取り組めるように、児童への働きかけ方を一層工夫していきたい。